Dept. of External Affairs
Min. des Affaires extérieures
OTTAWA
OCT - 1991
RETURN TO DEPARTMENTAL LIBRARY
RETOURNER A LA BIBLIOTHEQUE DU MINISTERE

交流の場

大使館事務所・公的施設 回廊庭園を併設

エスカレーターで4階に上ると、トロントの彫刻家テッド・ビーラー氏の作品「砕ける波」が、出迎えてくれる。

東京・青山通りに面して建てられた新しいカナダ大使館庁舎をちょっと離れたところから眺めると、3階建てのがっしりした石造ビルの上に、ガラス張りの大きな3角屋根がかぶさっているように見える。また、青山通りの正面に立ち、あるいは門内に入っていくと、一瞬3階建ての印象を受ける。

実際には、地上8階、地下3階、高さ36メートルある中層ビルだ。ただ、4階部分がカナダ・ガーデンと呼ばれる広い屋外テラスに囲まれ、そこから上が屋根状に傾斜しているため、3階建てのように見えるのだ。しかも、正面の壁が直立でなく若干傾斜しており、それがさらに建物の威圧感を薄めている。

これがおよそ2年前に着工され、今年3月末に完成したカナダ大使館新庁舎だ。建築面積4,847平米、延べ床面積32,400平米の鉄骨鉄筋コンクリート造り。壁や床は、みかげ石で仕上げられている。

3つの顔

新庁舎には、3つの顔がある。

第1の顔は、大使以下の館員が対日外交を進め、貿易・投資・科学技術交流・文化交流などを促進し、あるいは査証業務を行なうための事務所である。館員は、ここを基地にして、多くの人と会い、各地を飛び回り、本国と連絡をとる。大使館のいわばオペレーション・センターである。特殊ガラスの屋根をかぶせて自然光をふんだんに取り入れた5階から8階まで、こうした機能を果たすための大使室、それぞれにコンピューターを備えた超近代的な事務室、会議室などが陣取っている(ただし査証部は2階、領事部は3階)。

第2の顔は、日本との交流の場だ。さまざまな文化行事やトレード・ショー、会議などを通じてカナダ人と日本人がここで接触し、理解し合い、あるいは商談する。大使館の受付け、総ガラス張りの展示場、ホテル並みの設備を整えた調理場、そして展示場を囲むカナダ・ガーデンなどからなる4階と、広いロビーをとり囲むようにして劇場兼講演会場、ギャラリー、そしてリサーチ・ライブラリーがおかれた地下2階が、出会いの場である。4階と地下2階は5階以上の事務所セクションと切り離された、いわば公共的なスペース。4階では物産展、投資セミナー、料理実演セミナーなど、地下2階では美術展、コンサート、映画会、講演会、記者会見など、年中いろいろな催しものが開かれ、カナダ関連の図書、新聞・雑誌、ビデオなどを備えたリサーチ・ライブラリーも一般に開放されている。

圧巻は4階の回廊式カナダ・ガーデン。室内にある展示場やギャラリーと違って、ここは完全に屋外のテラスで、外から自由に出入りして(ただし大使館の開館時間中で、展示などで使用されていない場合)散策できる。粗仕上げのみかげ石を張った床に、カナダの大西洋岸からカナダ楯状地、大平原、北極海、マッケンジー山脈、ロッキー山脈、太平洋、そして太平洋の島々を渡って日本に至る風景が、地形や彫刻、滝、庭園などによって展開されている。そこから眺める東京の景色もすばらしい。東京の新しい出会いの名所になるはずである。

これらはいずれもカナダ大使館の顔であるが、新庁舎ビルの一部(地上1～3階)はビジネス用に賃貸されることになっており、それが大使館庁舎ビルとしては例のない第3の顔を作っている。そこにもまた、日加交流の精神が生きている。大使館と同じく青山通りに面するこの部分には、清水建設、長谷川工務店、アルバータとブリティッシュ・コロンビアの州政府代表事務所、大手銀行などが入る。

これは、大使館敷地の再開発に不動産信託という新しい方式が取り入れられたからだ。コンペで選ばれた清水建設と三菱信託銀行が資金を調達して、大使館所有の敷地に新庁舎を建設し、その建物の一部を賃貸して事業費を回収する、というやり方である。当初は大使館庁舎と賃貸ビルを別々に建てるという構想もあったが、結局ひとつの建物に両方を収容することになった。総工費は、仮庁舎の建設費、その後に建てられるカナダ人職員宿舎の建設費を含めて、約225億円。カナダ側は、敷地を供与したほか(ただし所有権はカナダ政府に所属)、大使館業務に必要な備品、保安設備、通信施設などの費用を負担した。現在は大使館部分と賃貸部分はほぼ半々だが、大使館業務の拡充とともに、信託部分は徐々にカナダ政府に移管され、信託期間が満了する30年後にはすべて返還されることになっている。

新庁舎へようこそ

駐日カナダ大使
ジェームズ・テイラー

在日カナダ大使館新庁舎の開館は、まさに日加二国間関係の重要性を象徴するものです。1929年に両国が外交関係を樹立して以来、その関係は政治、経済、科学技術、学術、文化、姉妹都市提携とさまざまな活動や交流へと大きく発展してきました。

新庁舎("Place Canada")は、大使館としては異例なことに、素晴らしいギャラリー、劇場、図書館、そして広々とした展示場を併設しています。これらの施設がカナダの最高水準の文化および産業の実績を紹介するセンターとなるよう、期待しています。

「カナダ・ニュース」のすべての読者が新庁舎を訪問され、そのさまざまな施設をご利用下さることを歓迎します。"Place Canada"は5月27日に公式にオープンし、ただちにイヌイット芸術展「マスターズ・オブ・ジ・アークティック／極北の名匠たち」が公開される予定です。新庁舎で展示されるこれらの素晴らしい作品を、ぜひともご覧下さい。

本誌中の新庁舎写真は完成直前の3月半ばに撮影したものです。